

日 薬 定 例 記 者 会 見 要 旨

日 時：令和7年2月4日（火）17：00～17：30

場 所：日本薬剤師会 第一会議室

出席者：岩月会長、原口副会長

内容・提出資料：

1. 日本薬剤師会における「大学教員薬剤師部会」設置のご案内及び「大学教員薬剤師部会全国会議」の開催について（令和7年3月10日開催）

岩月会長より、掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

本会と大学の教員が連携し、薬学教育をどう変革していけるかを議論するために、今年度から職域部会の中に「大学教員薬剤師部会」を新設した。

3月10日には、同部会の活動の一環として、全大学の教員を参加対象として全国会議を開催する。各大学から教員1名の派遣を依頼しており、主にスモールグループディスカッションにより、各大学、教員が抱える課題や本会に対する要望等について提起いただく予定である。今後、人口減など環境が変化する中で、病院や薬局、行政、製薬企業などに加えて、新たな職域での活躍、貢献が求められていく。調剤に偏重することなく幅広い人材を育てる薬学教育を目指していただきたい。全国会議はそのための課題を洗い出し、大学と連携する方策を探る機会としたい。

2. 医薬品販売制度に関する自己点検結果について

（令和7年2月4日 日薬業発第410号）

原口副会長より、掲題の件について説明された。主な内容は以下の通り。

本年度の結果では、自己点検表を配付した薬局・店舗数が49,303軒、うち回答のあった薬局・店舗数が45,643軒（92.6%）、その中で、該当する全項目について適切に実施していることを確認できた薬局・店舗数は45,588軒（99.9%）であった。前年度の回答率85.1%に比べ、多くの薬局等において点検の実施ができたこと、該当する全項目について適切に実施できる状態となっていることを評価したい。また、今年度はOTC医薬品の備蓄の有無に関わらず点検を求めたが、紅麹やOTC医薬品の過剰使用の問題などから意識付けができ、社会的役割を担わなければならないと思った薬局が増えた結果だと受け止めている。

一方で、点検を実施できていない薬局等や不十分な項目について改善できていない薬局等も一部見受けられる状況であるため、全ての薬局等における法令遵守の徹底に向けた対応と、法令を遵守した適切な医薬品の提供並びに地域住民への医薬品の適正使用の啓発について、都道府県薬剤師会および会員に依頼したところである。

主な質疑応答は以下のとおり。

〈医薬品販売制度に関する自己点検結果について〉

記者：OTC医薬品の備蓄の有無に関わらず点検を求めたことは結果に影響したか。

原口副会長：過去の調査では、OTC医薬品の備蓄がないために協力いただけない薬局もあったかもしれない。全薬局がOTC医薬品を扱い、地域の医薬品提供体制に貢献しようという本会のスタンスを理解し、備蓄がある無しに関わらずご協力をいただけたと理解している。

記者：岩月会長としてはどう分析されているか。

岩月会長：100%を目指してやらなければならない。OTC医薬品を含めた医薬品と薬剤師サー

ビスを全国津々浦々まで届ける、まさにそういったことの積み重ねである。離島・山間僻地への薬剤提供においても現場の実行力を欠くことはできない。地域医薬品提供計画構築に向け、薬局・薬剤師の機能強化等に関する検討会での都道府県と連携していく方向性や、国会審議前ではあるが令和7年度予算が計上されたこと、制度部会での議論の経過を通じて認識を共有できたことなど、様々な施策、議論が前進している中、現場が意識を変えて積み重ねていくことで最終的に地域の住民に認知いただくことが重要である。

次回の定例記者会見は、令和7年2月18日（火）11：00～を予定。